



放送局IP化の支援ハブ 六本木「5Gショーケース」の活用提案

「放送局の皆様には『IPとは何か』をより深く知ってほしい」。シスコシステムズ合同会社が六本木・東京ミッドタウンの自社内に用意した「5Gショーケース」の目的は、本格的なIP化を前に「体験」してもらうことだ。放送局が求めるクオリティでIP化を進めるためにはどのような準備が必要なのか。設備・システム面はもちろん、IP導入に向けた心構えまでレクチャーしてくれる、貴重なスペースとなっている。(レポート:高瀬徹朗・本誌ライター)

確かなクオリティのIP化を提供

最先端のモバイル通信規格である「5G」やパナソニックのIT/IPプラットフォームKAIROSを軸にしたリモートプロダクション体験に主眼が置かれがちな「5Gショーケース」だが、設置したシスコの狙いも含めて評するのであれば、「放送局向けIPネットワーク総合体験モデルルーム」といったところだろう。

eスポーツ中継を意識した設備や、画像解析と組み合わせたIoT設備の追加など、直近における「ショーケース」自体のアップデートは必ずしも放送用途に限ったものではない。だが、こうした先端機能を続々と追加できるのは、そもそも用意してあるネットワーク環境が放送クオリティを意識した、極めて規模と質の高いものであるからにほかならない。

「なぜ、シスコは放送局にIP化を提案するのか。我々は放送局IP化のために必要な専用機能を持っているからです。既存のオンデマンドサービスのように『落ちることもあるが、それは仕方がない』は、放送では通用しません。IPとはそういうものだ、で終わることなく、放送用途にクオリティと安定性を突き詰めた『IPFM』(IP Fabric for Media)を提供する。その技術とクオリティ、さらに我々の持つリソースや徹底したサポート力までをお見せできるのが、ここ『5Gショーケース』です」(シスコシステムズ

合同会社 データセンターネットワーク開発本部テクニカルマーケティングプロダクトマネージャー・下川洋平氏)。

「5Gショーケース」で確認できること

例えば、SDIとIPの切り替え速度比較。放送局のIP化において課題に挙げられることが多い遅延について、実際の比較を体験することが可能だ。

「SDI環境も用意しているので、同じコンテンツをスイッチャで切り替えて遅延の違いを体感できます。結論から言えば、体感できるレベルで遅延の違いを感じ取ることは難しいレベル(理論的には1フレーム以下)ですが、実際に確認していただくことで納得できることもあると考えています」(下川氏)。

スタジオサブのネットワークおよびトラブルシューティング体験も、シスコが勧めるメニューの一つだ。「IP化の中では、そのシステムを構築すること自体にのみ集中しがちだが、それでIP化は終わりではありません。例えば、重要だが見過ごされがちなのは、運用時のトラブル対応や将来の拡張性です」(同)。

トラブル時の対応、拡張時のシステム交換などを実際に行い、何がどう影響するのかを自



シスコシステムズ合同会社 データセンターネットワーク開発本部テクニカルマーケティングプロダクトマネージャー・下川洋平氏

分の目で確認する。「SDIでは回線の抜き差しがトラブルシューティングの第一歩として用いられますが、IPで同じことをしたら一大事です。そうした『IPの実際の動き』を確認していただくこの意味は大きい」と訴える。

自由度が高いIPだからこそ、使う側に知識が求められる。知識がなければ価格だけを気にするようになり、実際の運用や将来の拡張で困ることが出てくる、というのがシスコの考えだ。そして、正しいネットワークを構成しておけば、現段階でも5Gを活用できるシステムを組むことが可能なのは「5Gショーケース」の例が示すとおりだ。

「良いシステムを作っていくためには、放送局自身のIPの理解が一番大事。IPの理解なしには、適切な技術や製品の選択であったり、クラウドのようなサービスの利用など、向こう数十年で使い続けられるネットワークを構築することは難しいでしょう。『5Gショーケース』では各種体感デモはもちろん、座学ベースのネットワーク研修会なども用意していますので、関心のある放送局の方々には気軽にお声がけいただければ」と下川氏は呼びかける。

シスコシステムズ「5Gショーケース」の連絡先: 5gsc_yoyakucisco.com